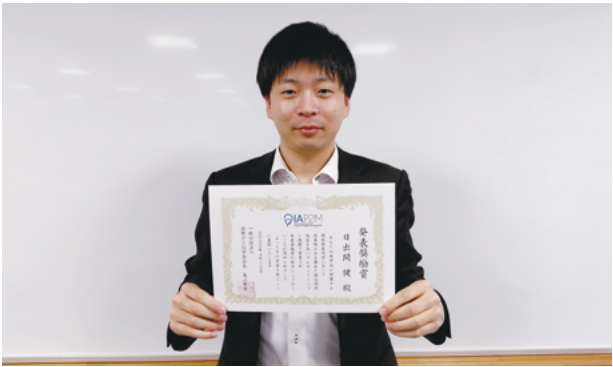


**第39回 国際P2M学会研究発表大会にて博士後期課程環境情報学専攻の  
日出間健さんが発表奨励賞を受賞**

2025年4月19日に本学横浜キャンパスで開催された第39回国際P2M学会研究発表大会にて、環境情報学研究科博士後期課程2年の日出間健さんが発表奨励賞を受賞しました。日出間さんは社会人博士として、価値創造プロセスやビジネスモデル変革をテーマに研究に取り組んでいます。受賞対象となった発表「ビジネスモデル変革プログラム&プロジェクト計画策定のための価値創造ストーリー分析フレームワークの提案」では、統合報告書や各種ガイドラインの調査に基づき、価値創造ストーリーを「6つの資本（財務資本、製造資本、知的資本、人的資本、社会・関係資本、自然資本）が多段階に変換されるプロセス」として記述する新たな分析フレームワークを提案し、それにより計画精度向上につながることを示しました。この研究内容は、複数の匿名査読者のコメントに基づき加筆修正を加え、国際P2M学会誌に採録されました（2025年10月）。



**国際会議ACESD 2025において博士後期課程環境情報学専攻の  
ソーモニリットさんがBest Presentation Awardを受賞しました**

2025年11月8日から10日に福岡で開催された国際会議ACESD 2025（2025 10th Asia Conference on Environment and Sustainable Development）において、環境情報学研究科環境情報学専攻（地域・都市環境領域）で横田研究室（都市生態計画）に在籍している大学院博士後期課程4年のソーモニリットさんが、「Evaluating Floodwater Storage Function of Unmanaged Spaces within Alluvial Plain along the Shin-Tone River, Japan（新利根川沿い沖積低地における耕作放棄地による洪水貯留機能の評価）」というタイトルで研究発表を行い、若手研究者ならびに学生の優れた発表に対して贈られる Best Presentation Awardを受賞しました。今後も、ソーモニリットさんが、防災と生態系の両立に貢献する先進的な研究を推進されることが期待されます。



**日本地すべり学会研究発表会において環境経営システム学科の松下紗弥歌さんと環境情報学専攻の山口朱莉さんが若手優秀発表賞を受賞**

2025年9月16日から19日にかけて、公益社団法人日本地すべり学会研究発表会が奈良県奈良市の奈良春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~をメイン会場として開催されました。その後、若手優秀発表賞の審査委員会による審査が行われ、環境学部環境地理学研究室（佐藤剛研究室）の松下紗弥歌さん（4年）の口頭発表「アイトラッキングによる地すべり地形判読プロセスの抽出と記録」と山口朱莉さん（M1）のポスター発表「ベトナム中部クアンナム省における表層崩壊の運動形態と地形および地質との関係」が同賞に選ばれました。

**【若手優秀発表賞（口頭発表部門）】**

松下紗弥歌・佐藤剛・山口朱莉  
「アイトラッキングによる地すべり地形判読プロセスの抽出と記録」



**【若手優秀発表賞（ポスター発表部門）】**

山口朱莉・佐藤剛・Tran The Viet・Van Thang Nguen  
「ベトナム中部クアンナム省における表層崩壊の運動形態と地形および地質との関係」



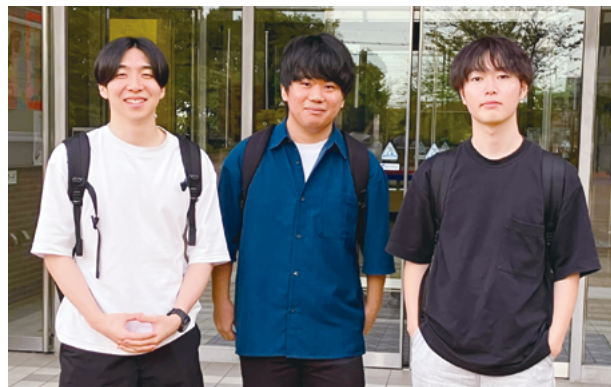
**環境科学会2025年会において、環境経営システム学科の見島未来さんが最優秀発表賞を受賞**

2025年9月4日に開催された環境科学会2025年会（叡啓大学）において、環境学部環境経営システム学科の兵法研究室に所属する見島未来さん（4年生）が、学部学生・高専生・高校生の部の最優秀発表賞（2025年富士電機賞）を受賞しました。受賞対象発表は「環境行政における女性管理職のキャリア形成」（見島未来，兵法彩，森朋子（立教大学））で、ジェンダー平等という切り口から環境行政に従事する女性職員のキャリアパスの質的分析し、その成果を報告しました。この内容は学部の卒業研究として国内の環境行政を対象とした研究となっています。大学院進学後は東アジアにフィールドを広げて調査・分析をさらに発展させる予定です。持続可能な社会の構築に向け、ジェンダー平等と環境行政の発展に寄与する研究の深化が期待されます。



技育CAMPハッカソンVol.12において環境情報学専攻大谷研究室の「ペンギンの問題」チームが努力賞を受賞

2025年9月6～7日に開催された株式会社サポーターズ主催「技育CAMPハッカソンVol.12」において、大谷研究室に所属する環境情報学専攻博士前期課程1年の岡村和哉さん、亀井絢太さん、瀧口翔太さんのチーム「ペンギンの問題」が努力賞を授与されました。技育CAMPハッカソンは、未来の技術者を育てる技育プロジェクトの一環として行われている企画で、2～5人のチーム開発を必須とするオンライン開発合宿です。「ペンギンの問題」チームでは、自分が記録したノートの内容に関する問題が自動で生成され、その問題を解くことで学習が促進される「AI Quiz Crafter」を開発しました。ノートはテキストで記載するだけでなく、ファイルを登録したり、Notionと連携したりすることもできます。その実装にあたり、メンバー全員が未経験だったAWSに挑戦し、バックエンドからフロントエンドまで一貫して開発しました。さらに、限られた開発期間の中でPWA対応とデプロイまで行い、スマホでも気軽に試せる形に仕上げました。



国際会議ICICSP 2025にて情報システム学科の騫申准教授が最優秀論文賞を受賞

2025年9月に開催された The International Conference on Information Communication and Signal Processing (ICICSP 2025, IEEE 共催)において、メディア情報学部 情報システム学科 騫申 (Shen Qian) 准教授の論文「Machine Learning-Based Adaptive Physical-Layer Security in Untrusted Relay Networks」(共著者: Shanghai Normal University, Meng Cheng 准教授)が、Best Paper Award (最優秀論文賞)を受賞しました。本研究では、非信頼中継ノードが存在する協調無線環境における情報漏えいを抑制するため、通信路状態を機械学習で予測し、送信タイミングおよび送信制御を適応的に最適化します。さらに、信頼性と秘匿性を同時に評価する新指標RSPを導入し、予測精度の向上がRSPの改善につながり、安全かつ確実な伝送に直結することを示しました。



**日本デザイン学会秋季企画大会で社会メディア学科の  
鈴木ふみ佳さん・森川実南さんが優秀賞受賞**

2025年11月8日に東京都市大学横浜キャンパスで開催された、2025年度日本デザイン学会秋季企画大会において、メディア情報学部社会メディア学科4年の鈴木ふみ佳さんと森川実南さんが、学生プロポジション優秀賞を受賞しました。

鈴木さんの発表タイトルは「学習教材における図と行間による文章提示構成の違いが理解と印象に及ぼす影響の生理的評価」(発表者：鈴木ふみ佳, 森川実南), 森川さんの発表タイトルは「オブジェクト指向UIとタスク試行UIの認知的適合性評価」(発表者：森川実南, 鈴木ふみ佳)です。

両名は互いを第2発表者とする2件の発表を行い、そのいずれもが優秀賞に選出されたため、それぞれ2件の優秀賞を受賞したことになります。指導教員はデザイン・データ科学部の永盛祐介准教授です。

なお、両名は東京都市大学大学院 情報データ科学研究科 博士前期課程への進学を予定しており、今後のさらなる活躍が期待されます。

